



Alleanza



2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月11日

上場会社名 アレンザホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3546 URL <http://www.alleanza-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅倉 俊一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818
 四半期報告書提出予定日 2022年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績(2021年3月1日~2021年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	117,826	△0.2	5,725	△20.1	6,139	△18.8	3,881	△19.7
2021年2月期第3四半期	118,097	15.6	7,167	147.9	7,561	135.9	4,836	204.5

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 3,924百万円(△21.3%) 2021年2月期第3四半期 4,986百万円(202.7%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2022年2月期第3四半期	128	97	128	78
2021年2月期第3四半期	161	04	160	71

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	81,064		27,900		32.9	
2021年2月期	80,489		25,066		29.7	

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 26,708百万円 2021年2月期 23,924百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2021年2月期	—	16.0	—	20.0	36.0	
2022年2月期	—	18.0	—			
2022年2月期(予想)				18.0	36.0	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年2月期の連結業績予想(2021年3月1日~2022年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	154,600	△1.8	5,930	△29.0	6,400	△27.8	4,000	△22.2	132	96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年2月期3Q	30,193,386株	2021年2月期	30,168,966株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	62,464株	2021年2月期	116,068株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年2月期3Q	30,098,492株	2021年2月期3Q	30,032,248株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年3月1日～2021年11月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に対して断続的に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が繰返し発令されたことに伴い、行動制限や営業自粛など、経済活動の停滞が長期化する状況が継続していましたが、ワクチン接種の進捗により感染者数も低位で推移するなど、人流の戻りや経済活動の正常化が期待されている中で、世界各地で新たな変異株の感染が確認されるなど、依然として収束見通しは立たず経済へ及ぼす影響も不透明な状況が継続しております。

このような状況の中で、当社グループは、主力事業であるホームセンター店舗、ペット専門店の営業において、ソーシャルディスタンスの確保、手指消毒の完全実施、呼びかけ等の基本的な感染防止策を改めて徹底するとともに新型コロナワクチンの職域接種を実施するなど従業員とお客様の安全を確保したうえで、安心して買い物をしていただける店舗環境作りに取り組み、地域のお客様への生活インフラとして生活必需品の供給に継続して注力して参りました。また「新たな生活様式」の定着化、リモートワークの普及など消費者のライフスタイルの変容、非接触志向のオンラインを活用した買い物、キャッシュレス決済の利用など、消費者のデジタルシフトが加速する中で、商品ニーズ、消費行動の変化を迅速に捉え対応し、中期成長戦略で掲げる「商品力の向上」としてPB商品の拡大を進めるとともにグループ内での物流改革施策等、中期経営計画を着実に進めて参りました。

新規出店につきましては、当第3四半期連結累計期間において、ダイユーエイトはオフィス用品専門店1店舗（山形県）、自転車専門店1店舗（福島県）、ホームセンターバローはプロショップ（愛知県）、キャンプ用品専門店（岐阜県）、ペットショップ（神奈川県）をそれぞれ1店舗、合計3店舗、タイムは広島県にホームセンターを1店舗、アミーゴは岡山県、京都府、富山県、秋田県にそれぞれ1店舗（ペット専門店）、合計4店舗を開設しております。また、スクラップ&ビルドにより4店舗退店しております。これにより当第3四半期連結会計期間末の店舗数は281店舗となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の連結営業収益は、1千178億2千6百万円（前年同期比0.2%減）、連結営業利益は57億2千5百万円（同20.1%減）、連結経常利益は61億3千9百万円（同18.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は38億8千1百万円（同19.7%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

〔ダイユーエイト〕

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で3.4%増加しましたが、来店客数が前年同期比で6.9%減少したことにより、既存店売上高は3.7%の減少となりました（2019年同期比3.4%増）

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、従来より重点的に品ぞろえ、サービス地域一番店を目指し取組んできた植物、園芸が第3四半期全体を通じて計画を上回る売上水準で推移しております。当期は2月に発生しました福島県沖地震の影響で木材、工具などを中心に家回りの補修特需が発生したこと、長期化するコロナ禍での巣ごもり需要により、観葉植物、花苗、家庭用除草関連用品等の売上が好調であったことに加えて夏場の猛暑の影響や、秋口には平均気温が前年比で落ち込むなどの季節ごとの天候与件も相まって、エアコン、扇風機、石油暖房、電気暖房等、季節家電商品の売上がそれぞれ好調に推移したことも第3四半期全体の売上高の底上げに寄与しております。しかしながら前年はコロナ特需の発生により客数を大きく伸ばし、生活衛生用品、家庭用品、収納用品、家電等を中心に売上指数が非常に大きかったため、当期は相対的に客数減少の反動が大きく前年同期比で既存店売上高は減収という結果となりました。

EC部門につきましては、コロナ禍のもとで非接触志向の高まりから市場規模も拡大しているなかで、新カテゴリーの導入と取扱品目の増加、さらなるユーザーサービス機能を拡充させるために即日発送可能商品数を大幅に増加させたことにより前年同期比でEC取扱高を大きく伸ばすことができました。

利益面につきましては、PB商品の取扱いアイテム数の拡大と販売強化による収益率の改善に取り組んでおり、今後さらなる商品開発のスピードを高めオリジナル商品の拡大に重点的に取り組んで参ります。

コスト面につきましては、広告等の販売促進費の増加、キャッシュレス決済利用率の増加に伴う手数料負担の増加の影響により販売費及び一般管理費が前年同期比で増加しております。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント営業収益は354億9千万円（前年同期比1.5%減）、セグメント利益（営業利益）は14億4千1百万円（前年同期比31.8%減）となりました。

〔タイム〕

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で2.8%増加しましたが、来店客数が前年同期比で7.8%減少したことにより、既存店売上高は5.3%減少となりました（2019年同期比1.8%増）

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向は、ホームセンタータイムの主要な出店エリアである中国、四国地方は天候与件もあり植物、園芸が計画を上回る売上水準で推移いたしました。また当第3四半期におきましては、殺虫剤・洗濯洗剤・住居洗剤も好調に推移したほか、季節商品に関しては例年と比較して10月第4週目から早めに気温が低下した影響により、電器暖房・石油暖房を中心に売上が出足好調に推移いたしました。しかしながら前年はコロナウイルス感染拡大の影響により生活衛生用品、日用品等の生活必需品や巣ごもり需要による木材塗料、工具金物といったDIY用品の売上が大きく伸びましたが、当期は建築木材・作業資材の価格高騰もあり、既存店売上高は前年同期比で減収となりました。

販売費および一般管理費につきましては、作業に応じた人員の配置、残業時間の削減を実施した他、折込みチラシ回数や配布エリアの削減、ポイントセールの見直し、間接部門の経費削減を行うことで必要コストの圧縮に継続して取り組んでおります。

これらの結果、タイムにおけるセグメント営業収益は120億6千7百万円（前年同期比0.9%減）、セグメント利益（営業利益）は2億4千8百万円（前年同期比52.7%減）となりました。セグメント利益の前年同期比減少の主な要因としては、新店を開設したことに伴う出店一時費用の負担が増加したことによるものであります。

〔ホームセンターバロー〕

ホームセンター事業は、既存店ベースの客単価が前年同期比で4.3%増加しましたが、来店客数が前年同期比で7.5%減少したことにより、既存店売上高は3.6%減少となりました（2019年同期比2.5%増）

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、第3四半期全体を通して穏やかな天候が続いたこともあり花苗・野菜苗を中心に園芸関連商品や木材、建築資材が好調に推移しました。また、リフォーム部門は前期はコロナウイルス感染の影響により受注件数が落ち込んでおりましたが、当期に入って堅調に持ち直し、第3四半期売上高は前年同期比で大きく伸びました。

新規出店としましては新業態となるキャンプギア用品に特化したアウトドア専門店「CAMP LINK（キャンプリンク）岐阜店」が10月22日にオープンしております。新たなPBブランドとして岐阜県の県鳥である“雷鳥”を意味する「ロックターミガン」を立ち上げ、マグカップ、焚き火台、シュラフなど品質、機能にこだわった商品を展開するとともに、岐阜県出身のYoutuber「さばいどる かほなん」氏に公式アンバサダーに就任頂き、イベントの開催など新たな情報発信に取り組んで参りました。これら新たな取り組みを行う一方で、前年はコロナ特需の影響が大きかった日用品部門、インテリアや家電製品などの季節商品の売上高が前年を下回ったこともあって当第3四半期の既存店売上高は減収という結果になりました。

EC部門においては、ECモール販促の見直しや仕入部門の強化を行い、荒利益率の改善を図って参りました。また、オリジナルセット商品の展開や、翌日お渡し対応商品の強化に取り組んだ結果、EC部門全体の売上高が前年同期比で伸びている状況であります。

ペット事業におきましては、既存店ベースの売上高は6.3%増加となりました。当第3四半期は小動物、鳥、魚の生体販売と用品販売の強化に重点的に取り組むとともに各種イベントを開催し新規顧客の開拓と拡販に取り組んで参りました。また、しつけ、ペット美容などのサービス機能の充実強化を実現したことにより前年と比較して荒利益率が改善しております。ペット専門店の新規出店としましては、神奈川県に「ペットフォレスト湘南茅ヶ崎店」を10月29日オープンしております。新店の新たな取り組みとしては犬猫生体の販売は行わず、地域の動物愛護センターと連携しペットの譲渡や譲受に関する情報交換やお客様に必要なペット情報を共有できる「たまごスペース」を店内正面に設置したこと、さらにコミュニケーションスペース、レクチャールームを設置することで、お客様とのつながりを重視し、地域のペットライフのコミュニティスペースを目指す新たなペットショップのカタチに挑戦して参ります。

コスト面につきましては、キャッシュレス決済利用増加による手数料負担の増加、EC売上高増加にともなう配送費等の負担増加があった一方で、チラシ販促からWEB・SNSによる販促強化へのシフト、経費削減に取り組んだことで計画内で推移しております。

これらの結果、ホームセンターバローにおけるセグメント営業収益は455億1千5百万円（前年同期比3.1%減）、セグメント利益（営業利益）は22億5千5百万円（前年同期比24.8%減）となりました。

[アミーゴ]

ペットショップアミーゴは、既存店ベースで客単価が0.7%減少しましたが、来店客数が前年同期比で3.3%増加したことにより、既存店売上高は2.5%増加となりました(2019年同期比20.9%増)

当第3四半期連結累計期間につきましては、前期はコロナ禍における外出自粛により室内で飼育できるペット需要が高まったことで生体販売数が大きく伸長いたしました。当期は犬猫生体販売伸長率は前年同期と比較して下回っている状況であります。ウサギ、ハムスターなどのコンパクトアニマルについては依然として需要が高く生体、関連用品ともに堅調に推移しております。ペット用品につきましては季節物のペットウェアやベッド、クール商品、ペットシートなどの消耗品関連、犬、猫のおやつなどの販売が好調であったほか、犬猫プレミアムフードも高い支持を受けており第3四半期通期の売上高の底上げに寄与しております。

当第3四半期は既存店5店舗の設備入替、店内レイアウトの変更など既存店活性化を目的として店舗改装を実施しており、改装店舗における売上高を前年同期比で伸長させることができました。

新規出店としましては、既存出店エリアである岡山県に岡南店、新規出店エリアとなる京都府アル・プラザ醍醐店、富山県内2店舗目となる高岡蓮華寺店、同じく秋田県内2店舗目となる横手店を開設しており、既存出店エリアのさらなるドミナント化の深耕と新規エリアの開拓を進めております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント営業収益は180億4千1百万円(前年同期比7.9%増)、セグメント利益(営業利益)は14億9千9百万円(前年同期比14.1%増)となりました。

[その他]

セグメント営業収益は115億7千2百万円(前年同期比0.8%減)、セグメント利益(営業利益)は11億1千6百万円(前年同期比53.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が810億6千4百万円、負債が531億6千3百万円、純資産は279億円となりました。以上の結果、自己資本比率は32.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2021年10月4日の「業績予想の上方修正に関するお知らせ」において公表しました業績予想値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,233	5,742
売掛金	1,599	2,240
たな卸資産	22,522	25,304
未収入金	5,515	6,020
その他	1,593	1,151
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	41,464	40,458
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	38,002	39,872
減価償却累計額	△21,483	△22,287
建物及び構築物(純額)	16,519	17,585
土地	4,133	4,133
リース資産	3,134	3,165
減価償却累計額	△1,472	△1,601
リース資産(純額)	1,661	1,563
その他	7,851	8,960
減価償却累計額	△5,999	△6,210
その他(純額)	1,851	2,749
有形固定資産合計	24,165	26,031
無形固定資産		
のれん	1,704	1,633
その他	5,283	5,172
無形固定資産合計	6,988	6,806
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,705	5,638
その他	2,212	2,174
貸倒引当金	△45	△45
投資その他の資産合計	7,872	7,767
固定資産合計	39,025	40,605
資産合計	80,489	81,064

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,813	10,397
電子記録債務	6,201	7,358
短期借入金	-	2,057
1年内返済予定の長期借入金	4,161	4,734
リース債務	693	682
未払法人税等	2,597	443
役員賞与引当金	49	4
ポイント引当金	432	437
災害損失引当金	85	5
その他	8,965	7,517
流動負債合計	35,999	33,638
固定負債		
長期借入金	13,678	13,879
リース債務	1,493	1,289
役員退職慰労引当金	116	124
退職給付に係る負債	1,122	1,106
資産除去債務	1,250	1,311
その他	1,762	1,813
固定負債合計	19,424	19,524
負債合計	55,423	53,163
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,004	2,011
資本剰余金	12,378	12,453
利益剰余金	9,513	12,251
自己株式	△1	△1
株主資本合計	23,894	26,714
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59	19
退職給付に係る調整累計額	△29	△25
その他の包括利益累計額合計	29	△5
新株予約権	32	19
非支配株主持分	1,109	1,172
純資産合計	25,066	27,900
負債純資産合計	80,489	81,064

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年11月30日)
売上高	115,103	114,838
売上原価	77,618	77,298
売上総利益	37,485	37,539
営業収入	2,994	2,988
営業総利益	40,479	40,527
販売費及び一般管理費	33,312	34,802
営業利益	7,167	5,725
営業外収益		
受取利息	24	25
受取配当金	4	4
受取手数料	364	373
その他	162	190
営業外収益合計	556	594
営業外費用		
支払利息	103	79
借入手数料	47	78
その他	10	22
営業外費用合計	161	180
経常利益	7,561	6,139
特別利益		
固定資産売却益	5	1
国庫補助金	1	24
助成金収入	72	-
保険金収入	4	6
違約金収入	-	20
受取損害賠償金	-	4
その他	12	12
特別利益合計	96	68
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産除却損	24	12
投資有価証券評価損	5	-
固定資産圧縮損	1	17
減損損失	12	7
営業自粛による損失	99	-
その他	10	10
特別損失合計	154	48
税金等調整前四半期純利益	7,503	6,159
法人税、住民税及び事業税	2,880	1,918
法人税等調整額	△291	281
法人税等合計	2,589	2,199
四半期純利益	4,914	3,960
非支配株主に帰属する四半期純利益	77	78
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,836	3,881

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益	4,914	3,960
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	78	△39
退職給付に係る調整額	△6	4
その他の包括利益合計	71	△35
四半期包括利益	4,986	3,924
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,907	3,846
非支配株主に係る四半期包括利益	79	78

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーパロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	35,640	12,037	46,960	16,714	111,352	6,744	118,097
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	401	143	—	—	545	4,921	5,466
計	36,042	12,181	46,960	16,714	111,898	11,665	123,564
セグメント利益	2,112	525	2,998	1,314	6,951	2,382	9,333

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	6,951
「その他」の区分の利益	2,382
セグメント間取引消去	△2,050
のれんの償却額	△71
固定資産の調整額	41
その他	△86
四半期連結損益計算書の営業利益	7,167

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーパロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	35,069	11,920	45,501	18,041	110,532	7,293	117,826
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	421	147	13	—	582	4,278	4,861
計	35,490	12,067	45,515	18,041	111,115	11,572	122,687
セグメント利益	1,441	248	2,255	1,499	5,445	1,116	6,562

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,445
「その他」の区分の利益	1,116
セグメント間取引消去	△701
のれんの償却額	△71
固定資産の調整額	22
その他	△86
四半期連結損益計算書の営業利益	5,725

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。